

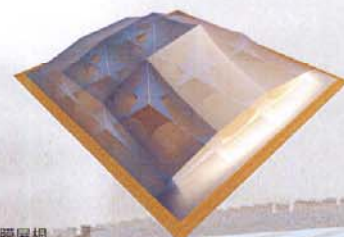
構成ダイアグラム



ガラスブロック構造



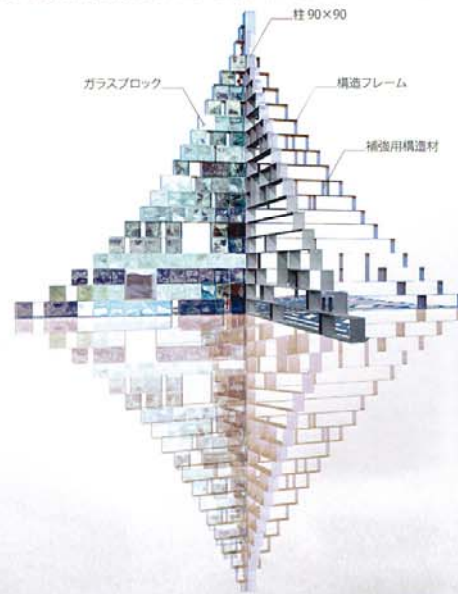
半透膜屋根



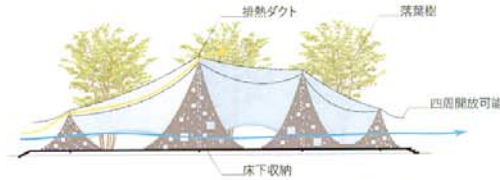
膜屋根

メタルジョイント構法のプレートを構造フレームとして利用

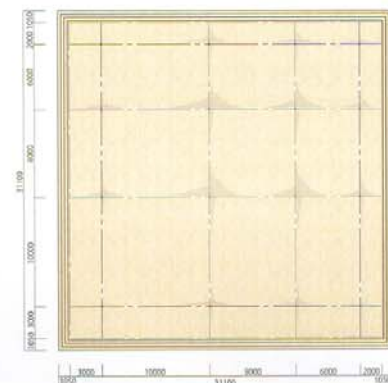
異なる色や形状を混ぜ合わせることで、多様な透明性をつくりだす。



内部環境ダイアグラム



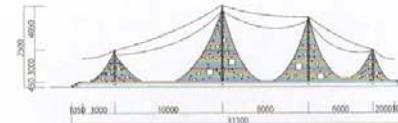
屋根は、外部に膜素材の屋根、内部にファブリック素材の屋根のダブルスキン構成。ファブリック素材により室内と室外の間に空気層を設け、湿度を一定に保ち断熱効果を高める。夏季には屋根頂部から暖められた空気を排気。冬季には屋根面で暖められた空気を床から噴出すことで室内を暖める。また、四方の膜材を丈夫へ持ち上げ、開放することで空気が通り抜ける。周囲を開放し内部が見えることや、外部にこどもたちの声が届く。密閉・閉鎖し守るのではなく、地域に見守られ、育つ家となる。



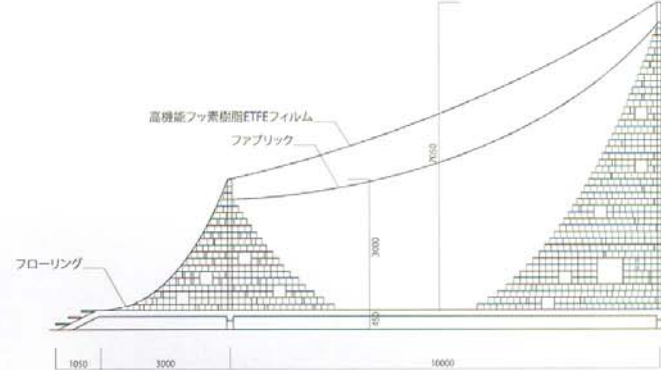
平面図 scale=1:500



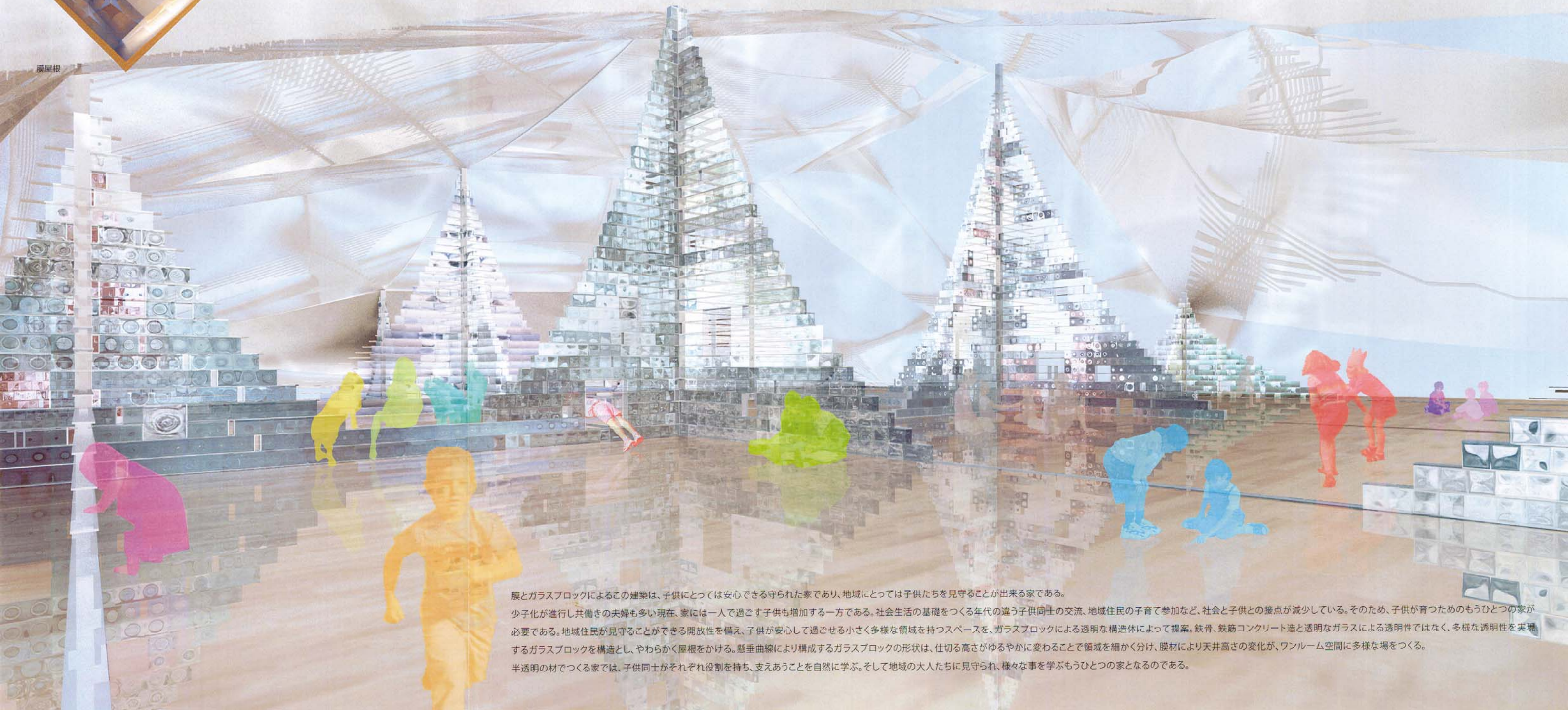
立面図 scale=1:500



断面図 scale=1:500



断面図



膜とガラスブロックによるこの建築は、子供にとっては安心できる守られた家であり、地域にとっては子供たちを見守ることが出来る家である。

少子化が進行し共働きの夫婦も多い現在、家には一人で過ごす子供も増加する一方である。社会生活の基礎をつくる年代の違う子供同士の交流、地域住民の子育て参加など、社会と子供との接点が少ない。そのため、子供が育つためのもうひとつの家が必要である。地域住民が見守ることができる開放性を備え、子供が安心して過ごせる小さく多様な領域を持つスペースを、ガラスブロックによる透明な構造体によって提案。鉄骨、鉄筋コンクリート造と透明なガラスによる透明性ではなく、多様な透明性を実現するガラスブロックを構造とし、やわらかく屋根をかける。懸垂曲線により構成するガラスブロックの形状は、仕切る高さがゆるやかに変わることによって領域を細かく分け、膜材により天井高さの変化が、ワンルーム空間に多様な場をつくる。

半透明の材でつくる家では、子供同士がそれぞれ役割を持ち、支えあうことを自然に学ぶ。そして地域の大人たちに見守られ、様々な事を学ぶもうひとつの家となるのである。